



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年11月12日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

挑戦続けるアイガモ農法の先駆者

12日(日) = 1、3面

福岡県で完全無農薬の米を栽培している農家があります。古野隆雄さん(73) = 写真。田植えをした後には、アイガモを放し飼いにし、害虫や雑草を食べてもらい、そして育ったアイガモは食肉として販売しています。このノウハウは海外でも注目され、各国の政財界の指導者が集まる世界的な会議に古野さんは招かれました。

完全無農薬での栽培を確立する挑戦には、雑草が常に立ちはだかりました。いろいろな除草法を試したり、草を抜き続けたりしても次々と生えてきたのです。チャレンジと工夫を重ねる中で、古野さんは新たな道具を開発しました。雑草のみを取り除くことができる優れたもので、機械では取ることが難しい狭い場所に生えている雑

草を取り除くこともできるのです。この道具にはユニークな名前を付けました。古野さんのところには農法を学ぼうと留学生らが集まってきます。一方、古野さんは惜しみなくノウハウを海外に広めようと奮闘しています。有機農業に懸ける古野さんの情熱と行動力に迫ります。

迫る



特集 ワイド



改造したという小型ドローンの写真を見せるハマス司令官=パレスチナ自治区ガザ市内で2015年春、大治朋子撮影

ハマスの謎に迫る 14日(火) = 夕刊2面

パレスチナ自治区ガザ地区を支配するイスラム組織ハマス。地上侵攻してくるイスラエル軍に対し、地下に張り巡らしたトンネルを駆使して徹底抗戦する構えをみせています。イスラエルの閣僚が核

使用の可能性に触れるなど情勢は緊迫しています。そもそも、ハマスとはどんな組織なのでしょう。果たして、この危機に出口はあるのでしょうか。現地的情勢に詳しい専門家3人に話を聞きました。



若年層が少なくなったインド南部ケララ州ティルバラ地区で土地を販売する看板=2023年9月27日、川上珠実撮影



世界人口考

人口最多のインドで始まった少子高齢化

15日(水) = 1、3面

国連の推計で今年、人口が14億2577万人に達し、中国を抜いて世界最多となったインド。しかし、人口増が著しい北部に対し、比較的豊かな南部では少子高齢化が始まっています。女性1人が生涯に産む子供の数を示す合計

特殊出生率は北部ビハール州では3・0ですが、南部ケララ州は1・5。高齢者比率も急速に上昇中です。少子高齢化と多産貧困を同時に抱えるインドの現状から、人口問題の難しさを改めて考えます。

論点 旧統一教会の解散命令請求を考える

15日(水) = オピニオン面

世界平和統一家庭連合(旧統一教会)に対して、政府は解散命令を請求しました。教団をめぐる霊感商法などの問題とともに、自民党との密接な関係が明るみになりました。一方、解散請求は、岸田文雄首相の支持率浮揚の狙いも見え

隠れます。自民党は本当に教団と手を切ることができるのでしょうか？この問題に長年取り組んできた元参院議員の有田芳生さんと、解散請求に疑問を投げかけた日本基督教団豊岡教会の小林聖牧師に聞きました。



解散命令請求などを受け、記者会見する田中富広会長=都内で2023年11月7日、手塚耕一郎撮影



(小林知史)

毎日新聞社では、今後の住まい、相続と

いったお困りごと専門家が最適な解決方法を提案する「生活の窓口」というサービスがあります。最も多いご相談は、老後の資金問題。来年から少額投資非課税制度(NISA)が大幅拡充されることから、11月25日にセミナー「新NISA制度でも知っておくべき相続対策のポイント」を開催します。ぜひご参加ください。

